

ミドリコハナバチ

Halictus tumulorum ferripennis (Cockerell)
ハチ目・コハナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査時に比べ生息確認地点数は減少。生息環境は悪化していると考えられるが、本種をレッドリストに掲載しているのは本県のみである点も考慮してランクダウン。

種の特徴

体長約7mm。体はやや黒みがかった銅色光沢をもつ。近縁種のアカガネコハナバチとは、後頭部の形状から容易に区別できる。成虫は7～10月に出現。河川の砂地に穴を掘って巣を作り、花粉を集めて幼虫を育てる。

分布

北海道と本州に生息。本県は分布の南限。県内では大野市勝原、谷戸口、前坂、小谷堂等九頭竜川の中上流の河川敷に記録がある。今回は大野市小谷堂で引き続き確認された。

生息を脅かす要因

河川環境の改変が脅威となる。従来の生息地のうち、谷戸口は他所から運び込まれた土砂で埋め立てられ、前坂はキャンプ地となって本種の生息が認められなくなった。自然の砂地が残る河川敷の減少は、本種の存続を脅かす。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

タイリクハキリバチ

Megachile ligniseca (Kirby)
ハチ目・ハキリバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の山地を中心に調査が行われたが、今回は確認されなかった。生息状況についての情報は少ないが、本種をレッドリストに記載しているのは本県のみであることと、山岳域という比較的開発等の影響が少ない場所に生息している点を考慮してランクダウンした。

種の特徴

オスは体長12～14mm、メスは体長15～17mm。体の点刻は全体的に弱い。欧州で朽木に営巣することが報告されている。他のハキリバチのように木の葉を切り取って育室を作るものと考えられる。山岳域に生息する。

分布

北海道と本州（中部以北）に分布し、本州では稀。県内では大野市六本檜と谷山で記録がある。今回は奥越の山地を中心に調査が行われたが、本種の確認には至っていない。

生息を脅かす要因

山岳域での森林環境の改変が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

マイマイツツハナバチ

Osmia orientalis Benoist
ハチ目・ハキリバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともと県内で広く採集記録があり、今回は県内各地で精力的に調査が行われたが、生息が確認されたのは3地点のみであった。県内での本種の生息環境は急激に悪化していると考えられ、絶滅の恐れは高まっている。

種の特徴

体長は11mmほど。体は銅鉄様青色、腹部は特に青みが強い。体色は灰白色で、腹背の毛は短い。春季に出現し、カタツムリの空殻に営巣する。平地～低山地の果樹園等で活動し、レンゲ、ヒメオドリコソウ等に訪花することが報告されている。

分布

本州～九州に分布。これまでに県内で山地等を中心に、20地点以上での採集記録があるが、今回確認されたのは大野市平家平と下打波、上打波の3地点のみ。

生息を脅かす要因

本種の減少の要因として、宅地造成や土地造成、道路建設等によるカタツムリの減少が指摘されている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、羽田ら (2002)、平嶋・森本 (2008)、環境省 (2015)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○		○	○	○	○					○	○	○